



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 竹内洋司／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

## ILO公共緊急サービスにおける デイリーセント・ワークに関するガイドライン会議

2018年4月16日(土)20日、スイス・ジュネーブのILO本部において、「公共緊急サービスにおけるデイリーセント・ワークに関するガイドライン会議(PES)」が開催された。

このガイドラインはILOの条約・勧告とあわせて国際労働基準の一つに位置付けられており、ILO総会と同様に、政府・労働者・使用者の代表者が相互に議論する形式で会議が進められる。ILO事務局から事前に提起さ

れた115の個別項目について、政労使が交渉し、コンセンサス方式で採択する会議である。

今回、全消協の竹内洋司事務局長がPSIJC(国際公務労務連加盟組合日本協議会)を代表し、労働者側の専門家8人の一員として参画した。

労働者のグループミーティングは、PSIのディビッド書記次長が進行し、竹内事務局長を含む専門家8人とテクニカルアドバイザーが、ガイドラインの個別項目を協議し、労働者側の意見をまとめ全体会議に臨んだ。



ILO本部、「政府・労働者・使用者」全体会議の様子

全消協としてILO 87号条約(団結権)や労働時間・安全衛生・ハラスメントに関することなど、日本の消防職員の現状を説明し、具体的な提起を行った。また、全消協に限らずPSIJCの産別組合から託された集約意見も同様に提起した。5日間にわたった全体会議の交渉において、政・労・使の意見が一



労働者専門家ミーティングの様子



ガイライダーILO事務局長

致し、スムーズに進む場面がある一方、三者の意見が対立する案件もあり、短時間の中で戦略的な判断が迫られる局面もあった。  
その結果、すべての項目、段落、語句に着目し、細かい議論を重ね、個別項目は129に広がり、ガイドラインは、より具体的な内容を含む形で、最終日にすべてが採択された。

### 会議を終えての所感

事務局長 竹内洋司

今回の会議にPSIJCを代表して参加し、東日本震災など数多くの災害対応に従事する日本の公務労働者の現状を訴えた。初動対応の消防職員だけではなく、医療従事者、水道事業などライフライン関係者や地方自治体の職員が抱える現状と課題を踏まえ、意見を提起した。

その結果、ILOガイドラインに反映できたことは非常に意義があると思う。

今後重要なことは、日本の公共緊急サービスに従事するすべての労働者が、現状の問題を改善すべく、ガイドラインを活かした取り組みを実践すること。また、この結果を全消協に結集する会員にフィードバックすること。これらの行動が、より良い住民サービスに資することであると考察する。

また、休憩中にはILOのガイライダー事務局長と対面し、「日本の消防職員がILOのガイドライン会議に関与し、意見を反映させることは非常に意義があり、価値のある行動だ」との言葉を頂戴した。今回の国際会議の場における全消協の意見陳述は、2017年11月、PSI第30回世界大会での全消協の村上会長とガイライダー事務局長のパネルディスカッションに続き、大きな成果であると考えている。この国際連帯活動は、2018年6月の第107回ILO総会で、日本の消防職員の団結権付与について、事実上11回目の勧告に繋がった。

全消協は、この成果を基礎にして今後も活動を推進する所存である。

全消協

# 第46回全国消防職員研究集会

2018年6月8日～9日の2日間、岡山国際ホテル（岡山県）で開催、140単協、302人が参加した。

## 初日 全体集会

村上直樹会長より、「本研究集会を通じて、参加された皆さんが知識を深め、質の高い消防サービスの習得し、充実した研修にしていたきたい」と主催者挨拶を述べた。



来賓には、開催地の岡山県を代表し、新見市消防職員協議会の竹本典孝会長、自治労本部の杣谷高彦副委員長、自治労岡山県本部の古林久和委員長、そして第25回参議院議員選挙自治労組織内候補予定者である岸まきこさんより、それぞれ力強い挨拶をいただいた。

### 本部提起

### 消防職場の問題と課題の解決にむけて

吉村大作事務局長より、組織強化・拡大の新たなアクションプランの策定や、緊急消防援助隊の課題、労働安全衛生・各種ハラスメントならびにメンタルヘルスに對しての取り組み、救急需要対策国際連帯による団結の回復について提起を行った。

### 2018年度全消協活動経過報告

①PSI第30回世界大会・ILO公共緊急サービスにおけるディセント・ワークに関するガイドライン会議報告

竹内洋司事務局長より、PSI世界大会とILO会議において、日本の消防職場の問題点や、団結権回復の必要性の討議が行われたこと、また、PSI活動を通じた国際連帯の取り組みについて報告した。

### ②女性連絡会2018年度活動報告

青木玲奈女性代表より、2018年度に女性連絡会が行った会議や総務省消防庁との意見交換、各種事業への参加等について報告した。

### 記念講演

### 「我が国の危機管理について」 ～シンジラが語る我が国の危機管理について～

大庭誠司前総務省消防庁次長が、官邸での危機管理体制をはじめ、地震などの大規模災害発生時の初動はどのように行われているか、また、それら災害に対する地域防災力の強化には何が必要か、などについて講演した。

## 2日目 分科会

# 5つの専門分野に分かれ 分科会を開催！

～担当した幹事の所感～

### 第1分科会「組織強化・拡大」

全消協発足の大きなきっかけとなった宮崎県消協が作成した40周年記念DVDを上映し、その後、組織拡大として九州ブロック、鹿児島消協の実例を紹介した。グループワークでは、「新入会員説明会」、「未組織へのオルグ」、「青年部の立ち上げ」を討議し、グループ発表を行った。質疑応答では、各単協の成り立ちの違いを学んだほか、未組織参加者へのエールもあり、大変白熱した議論となった。（佐藤）

### 第2分科会「賃金・労働条件」

「消防職員である前に我々は労働者である」ということ。何のために消防へ働きに行っているのかに重点を置いて講義を行った。参加いただいた方々も非常に熱心で、今何が必要でどうすべきか。強い眼差しを感じ、私自身とても力が入った。労働基準法は労働条件の最低基準を示したものである。自分たちの職場の労働条件を自分たちで確保していくため、ともに頑張りましょう。（大山）

### 第3分科会「労働安全衛生」

「メンタルヘルス」と「ハラスメント」について、職場におけるストレスに対処する考え方やハラスメントの事例を紹介した。その後、自治労本部の白井桂子法対労安局長がハラスメント対策に関して講義を行った。自身が経験したハラスメントの紹介や対応策についてわかりやすい解説をいただいた。

誰でもメンタル不調に陥ったり、ハラスメントの加害者や被害者になる可能性がある。今回の分科会が、各消防本部でメンタルヘルスやハラスメントを考えるきっかけとなることを期待する。（山端・本多）

### 第4分科会「救急医療体制」

「救急隊員に必要な接遇コミュニケーション」について、講師を務めた株式会社エンパワー21の能勢みゆき代表取締役から、救急隊員が活動に際して注意すべき点を教えていただき、傷病者役・隊員役を想定して、「クッション言葉」の使い方をシミュレーションした。接遇が救急活動に必要なのかと

### 第5分科会「男女平等参画・国際連帯活動」

公務職場のみならず、民間企業等も含め世界的にも積極的に取り組みが進んでいる、LGBTへの対応についての話をさせていただいた。

全消協の各種行事において取り上げてきたため、参加者の認知度は以前より格段に上がっている。しかし、組織（単協）としての取り組みや対応が進んでいるところは依然として少ない。今後、組織（単協）としてどのように取り組みを進めていくのか考えていただく機会になったと感じている。（吉田・川上・西尾）



疑問に感じていた受講者もいたが、サービス業における一般的な接客とは大きく異なり、傷病者の観察に必要な聞き取りのスキルが必要が理解できた。

また、接遇コミュニケーション能力が高まれば、傷病者からの信頼が得られ、迅速・的確な情報聴取に繋がることが理解できたとの声もあった。（福岡・返町）



# 第1回女性連絡会交流会

## 全消協女性連絡会主体による初の行事で、全国から30人の女性消防職員（女性会員含む）が参加！

6月9日、第1回女性連絡会交流会を岡山市コンベンションセンターにて開催した。

これまでも全消協各種行事の昼食時間に、年数回の意見交換会を行ってきたが、「もっと意見交換する機会がほしい」という参加者の要望もあり、協議を重ねて今回初の開催に至った。

交流会のテーマは、「消防のクセはすごいんじゃない？消防の常識は社会の非常識？」とした。これには女性幹事が自治労の女性職員と消防職場の話をした際に、消防では常識と思っていたことが一般的には実は非常識であることに気づかされた経験があった。「ちょっと嫌だけど、あたり前だから私がい慢すれば」と思っていることが、外から見ると「あり得ない」ことで、改善の余地があると感じただけである。



その現状を女性消防職員の皆さんにも知ってもらいたい、感じてもらいたいと思ひ、他職種である自治労女性職員の方々にも参加を依頼し、交流する機会を作った。

交流会は、開始前から活発に名刺交換や雑談をする様子が見受けられ、終始明るく和やかな雰囲気であった。

- ①女性連絡会の活動紹介
- ②複数本部の女性仮眠室の紹介
- ③フリートーク

その現状を女性消防職員の皆さんにも知ってもらいたい、感じてもらいたいと思ひ、他職種である自治労女性職員の方々にも参加を依頼し、交流する機会を作った。

6月22～23日、東京・自治労会館で2018年度男女平等セミナーが開催された。全消協からは村上直樹会長、竹内洋司事務局長、西尾基貴幹事、吉田真也ユース代表、岡久佳乃女性連絡会副代表、伊藤達也ユース部幹事、仲野桂大特別幹事、福山優花前女性連絡会幹事の8人が参加した。

# PSII-JC設立30周年記念講演

## ローザ・パヴァネリPSI書記長による記念講演が行われる！



講演するローザ・パヴァネリ書記長

今年の男女平等セミナーは、PSII-JC 30周年設立記念講演とあわせて開催された。記念講演のために来日したローザPSI書記長は、「5月のILO総会の中で日本における消防職員および刑事施設職員の団結権、団体交渉権を獲得するために活動をしてきた。結果として条約勧告適用委員会からも理解を示す旨のコメントを得ることができた。全消協のみならず、ファーストレスポンド（緊急事態従事者）として対応する職員の権利、労働条件がいかに重要なのか、ということに訴えてこられた。全消協の村上会長、竹内事務局長は、ジュネーブで開催されたPSI世界大会でのパネルセッションやILOの三者構成専門会議の場で重要な役割を果た

### 1日目

青木真理子PSII-JC女性委員会議長が、「働きやすい職場づくり〜ハラスメント防止にむけて〜」と題する提起を行った。その後、それぞれの職場におけるハラスメントの実態、解決策、予防策についてグループ討議し、発表を行った。

### 2日目

増原裕子LGBT法連合会事務局長代理/株式会社トロワ・クルール代表取締役が、「LGBTQ Iとは」と題して、LGBTQ Iの基礎知識をはじめ、自身の経験



や事例を交えながら、対応策について講演を行った。続いて、職場で働く仲間からのカミングアウト、自分ならどう受け止める、どう対応する等について、ワールド・カフェ方式でメンバーを入れ替えながら、自由に対話を行った。最後に、佐藤良太PSII-JCユースネット共同議長（自治労）がまとめを行い、2日間のセミナーを終えた。

# 明治大学自治労寄付講座

テーマ

## 消防職員の活動と地方自治体の責任

全消協 北信ブロック幹事 返町直也



講演する筆者

2018年6月19日、明治大学駿河台キャンパスにて、自治労寄付講座が行われ、講師として参加した。

この講座は、地方公務員志望者の多い学部对学生に対し、地方自治体の役割と公共サービスの現状や意義をアピールし、公務員への偏見や間違ったイメージを改善し、問題点、課題点をともに考えてもらうことを目的とした自治労主催の社会貢献活動である。

日本の消防職場、さらにもっと細かく自分の職場の実情を伝えた上で、「なぜ協議会活動をしているのか?」「なぜ協議会という組織が必要なのか?」を率直に伝えた。



講義を聞く学生たち

一般的に消防職場は、指揮命令系統がしっかりしており、職場環境も良いと思われるが、だが、実情を話すと学生から驚きの声が上がった。改めてさまざまな立場からもっと外へ発信していく必要性を感じた。「日本人は、いまだに仕事への忠誠・義務を過度に求めると感じる。厳正な規律と統制が必要な故に、バワハラや過酷な労働条件が暗黙の領域になっっていることが嘆かわしい」など、学生から客観的で鋭い感想もいただいた。

最後に、学生達にどんな職場であろうとも「そこに働いている職員自身が声をあげないと何も変わらない」と伝え、講演を終えた。

### 半鐘のそだま

私が全国幹事になり、早いもので10カ月が過ぎた。改めて感じたのが、全国消防職員協議会の一致団結するという力強い意志である。この一致団結の意味は「一つの共通の目的やゴールにむけて協力しあいがら物事を進めていくこと」であり、言い換えれば、「チームワーク」ともいえる。ここで「チームワーク」という言葉を思い出したことを話したいと思う。

「MAJOR」という漫画を存知だろうか。これは、野球選手の息子である本田という少年が、野球を通じて大切な「何か」を見つけ、成長していく内容である。その中でも印象的だったのが、本田が小学生の時、誰も信じて、すべて一人で野球をしているシーンがあった。それを見てチームメイトはやる気をなくし、彼の言動に聞く耳を持たなくなり、チームの雰囲気は最悪な状態になった。そこで監督が彼に助言した。「チームなんて、初めはみんな点でしかない。でも、

その点が信頼や友情で線となり、一線は円となってチームワークとなる」

この言葉は野球に限らず、すべてのこといえると思う。全員で力をあわせ、ともに助けあう場所、それが協議会である。初めは心細いと思うが、一つの会議に参加することで、たくさん仲間と繋がることができる。もちろん最初は名前を覚えるだけになってしまいうが、名刺交換から始まり、情報共有、いつしか友人として一緒に出かけたり、職場で困ったことがあれば、「ついでに〇〇さんのごめんではどうしてた。聞いてみよう」と気軽にSNSや電話ができる仲間となり、他の単協との繋がりが線になり、やがて円となり発展していく。

私も会員同士の繋がりを大切に、「チームワーク」の精神を持って努力し、全国幹事としての責務を果たしたいと思う。

本多将人(東北ブロック幹事)

### 最新の全消協活動を配信中です

ぜひアクセスや「いいね!」をお願いします。

全消協  
ホームページ



全消協  
公式Facebook



ユース部  
公式Facebook



女性連絡会  
公式Facebook



今後の予定

全消協第42回定期総会  
2018年8月25日

※前日8月24日(金)19:00~、会員制の任意ではありますが、参加者懇親会を開催します。奮ってご参加ください。